



家畜保健衛生所だより

R7.4.15

熊本県で馬インフルエンザが発生！国内17年振り！

4月8日、熊本県の重種馬飼養農場3戸で馬インフルエンザの発生が確認されました。国内での発生は、2008年以来、17年振りとなります。

馬インフルエンザは、40℃前後の発熱、元気・食欲の低下、乾いた咳、鼻汁等の症状を示す感染症です。人に感染することはありませんが、感染馬の咳等によって空气中にウイルスが排出され、周囲の馬に短時間で感染が広がる可能性があります。2007年～2008年の発生では、33都道府県に感染が拡大し、2,512頭(疑症を含む)の届出がありました。



本病の予防対策として、ワクチン接種が非常に重要です。接種を検討される場合にはかかりつけの獣医師にご相談ください。また、厩舎の清掃消毒を念入りに行い、農場や厩舎を出入りする際は手指や靴の消毒を徹底し、発生予防に努めましょう！

種類	基礎接種		補強接種		備考
	1～3月		5～6月	11月頃	
1歳馬	●	●※	○	○	予防接種間隔が1年を超えた場合は、再度基礎接種から実施すること
2歳馬			●	○	
3歳馬以降			○	○	半年ごと(春季・秋季を推奨)に1回の補強接種を実施すること

● 3種混合ワクチンを推奨 ○ 3種混合ワクチンが望ましいが、単味ワクチンでも可
○ 単味ワクチンで可
※1回目の注射後4週間以上間隔をあけて、2回目の注射を実施してください。
(軽種馬防疫協議会 推奨されるワクチンプログラムより)

🐎 発生拡大防止には初期対応が非常に重要です。🐎
疑わしい症状が発見された場合には、速やかに隔離し、
獣医師又は家畜保健衛生所に届出してください！

中予家畜保健衛生所 TEL 089-990-1333
携帯 090-6282-6129 (夜間・休日)